

2023 年 3 月 30 日
東日本旅客鉄道株式会社

所有ビルのオフィス使用電力全てを実質再生可能エネルギー由来に ～2023 年度より導入開始、入居企業の RE100 にも対応～

- JR 東日本グループは、将来にわたり環境価値を向上し、社会に新たな価値を創造する企業グループであり続けるために、2050 年度の CO₂ 排出量「実質ゼロ」を JR 東日本グループ全体の長期目標としています。
- このたび、JR 東日本が所有するビルのオフィス部分を対象に、2023 年度より再生可能エネルギー証書^{※1}を活用して実質再生可能エネルギー由来の電力に切替を行います。
- 今回、14 棟の物件に導入し CO₂ の削減総量は、年間約 18,000 トンを見込んでいます。

1. 概要

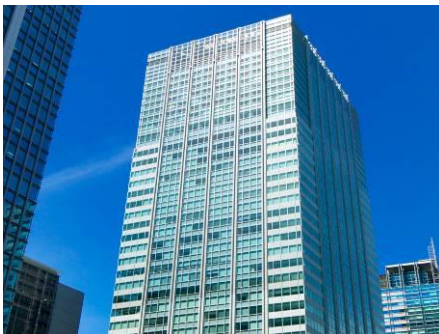
脱炭素社会の実現に向けたオフィステナントニーズの高まりを受け、2023 年度より所有ビル（※2）のオフィス使用電力を実質再生可能エネルギー由来へ切替を行います。対象範囲はテナント使用電力も含めたオフィスエリア全般とし、希望するテナントに対しては RE100 対応の電力を提供します。今回、14 棟の物件に導入する CO₂ の削減総量は、年間約 18,000 トンを見込んでいます。

2. 対象物件

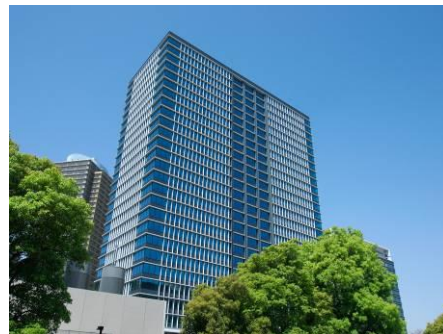
東京都内（10 棟）	グラントウキョウサウスタワー（※3）、サピアタワー、JR 新宿ミライナタワー、ウォーターズ竹芝、JR 品川イーストビル、JR 恵比寿ビル、JR 信濃町ビル JR 八丁堀ビル、JR 東急目黒ビル（※3）、メトロポリタンプラザビル（※4）
神奈川県内（2 棟）	JR 横浜タワー、JR 川崎タワー
埼玉県内（1 棟）	JR さいたま新都心ビル（※3）
宮城県内（1 棟）	JR 仙台イーストゲートビル



JR 新宿ミライナタワー



サピアタワー



JR 川崎タワー

- ※1 今回活用する再生可能エネルギー証書は、非化石証書等を予定
- ※2 区分所有ビル、共有ビルについては、一部物件にて導入予定
- ※3 当社持分の専用部のみ導入予定
- ※4 連結子会社の(株)JR 東日本ビルディングが所有、同社持分の専用部のみ導入予定

3. 高輪ゲートウェイシティ(仮称)における取り組み

高輪ゲートウェイシティ(仮称)のまちづくりにおいても、使用電力を実質再生可能エネルギー由来にする取り組みを導入することで、環境先進の都市づくりに寄与し、CO₂ 排出量「実質ゼロ」を実現します。

また、高輪ゲートウェイシティ(仮称)では省エネ・創エネ・エネルギーマネジメントにより、サステナブルな環境先進都市づくりを推進しています。エネルギー多様化の観点から水素利活用の取り組みを推進し、モビリティや燃料電池などでの活用を検討しながらまちづくりを進めています。



参考

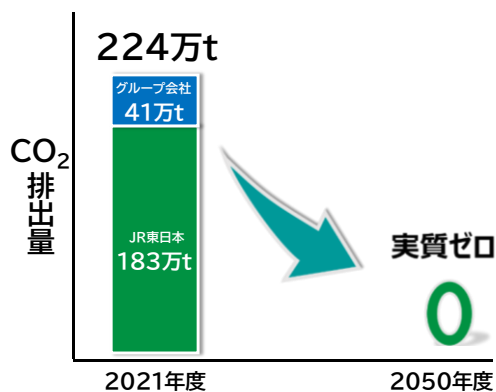
RE100 とは

「Renewable Energy 100%」の略称で、企業が事業で使用する電力を 100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す、国際的なイニシアチブです。

JR 東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」について

JR 東日本は、グループ経営ビジョン「変革 2027」において、「ESG 経営の実践」を経営の柱として掲げ、2050 年度の鉄道事業における CO₂ 排出量「実質ゼロ」を目指す環境目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を 2020 年 5 月に公表しました。2020 年 10 月には、さらに「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を JR 東日本グループ全体の目標とし、グループ一体となって 2050 年度の CO₂ 排出量「実質ゼロ」に挑戦することを公表しました。

○ 2050 年度 CO₂ 排出量削減目標



【2030 年度の目標】

○ 鉄道事業における CO₂ 排出量削減目標

2013 年度比 ▲50%

○ 東北エリアの電車運行に係る CO₂ 排出量ゼロ